

令和4年7月4日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム ＜プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援＞ 2022年度新規課題の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、大学発新産業創出プログラム＜プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援＞における2022年度の新規課題8件を決定しました（別紙）。

本事業では、優れた技術シーズを基にしたベンチャー企業の創出を目的とし、起業と事業の成長に必要な知識の学習、およびビジネスモデルの仮説立案・検証を行います。具体的には、研究者や事業化プロデューサーなどがチームを組み、自らの技術シーズを基にしたビジネスモデルの策定と実用検証可能な最小限の試作品やデータ（実験結果、計算結果）などを準備し、想定される顧客などから評価を受けます。その評価結果や社会ニーズを、次の研究開発にフィードバックさせてビジネスモデルのさらなる現実化・高度化を目指すとともに、事業化に向けた改善サイクルの経験を通して、起業および経営に必要な能力の向上やネットワークの形成を図ります。

本年度の募集は2022年2月24日（木）から5月9日（月）まで行い、21件の応募がありました。それらに対し外部専門家で構成された委員会による審査を実施し、その結果を基に8件の新規課題を決定しました。

今後、契約などの条件が整い次第、活動を開始する予定です。

なお、事業の詳細については下記ホームページをご覧ください。

URL：<https://www.jst.go.jp/start/biz-model/index.html>

＜添付資料＞

- 別紙：研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
＜プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援＞採択課題一覧
- 参考：研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
＜プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援＞概要

＜お問い合わせ先＞

科学技術振興機構 産学連携展開部
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's 五番町
森田 浩（モリタ ヒロシ）
Tel：03-5214-7054 Fax：03-3238-5373
E-mail：[start-score\[at\]jst.go.jp](mailto:start-score@jst.go.jp)

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム
 <プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援>
 採択課題一覧

(所属名：五十音順)

課題名	研究代表者	課題概要
世界最小口径の異種脱細胞化血管の事業化検証	国立循環器病研究センター 研究所 部長 山岡 哲二	糖尿病性下肢救済や冠動脈バイパス術などに応用可能な小口径人工血管として、ダチョウ頸動脈由来脱細胞化小口径血管（内径2ミリメートル、長さ30センチメートル）の開存化に世界で初めて成功した。その脱細胞化技術や内膜誘導化技術などの製造工程を基盤とする技術の事業化と人工血管の臨床化を目指す。
ナノカーボンを用いたロバスト性逆浸透（RO）膜技術の事業化検証	信州大学 工学部 准教授 竹内 健司	ナノカーボンを用いたロバスト性逆浸透（RO）膜の技術シーズを活用して、革新的な性能を持つRO膜モジュールの事業化を目指す。水処理関連企業などへのヒアリングを行い、ビジネスモデルの立案と事業化に向けた技術検証を実施する。
オンチップ液体クロマトグラフィーとAIを用いた汗中代謝分子分析の事業化	東京大学 大学院薬学系研究科 准教授 角田 誠	汗中成分のオンサイト分析によるテーラーメイドサービスを実現するため、オンチップ液体クロマトグラフィーを用いてアミノ酸などの代謝分子を分析しデータを機械学習で解析することで、解析結果を用いたソリューション開発につなげる。また、マーケティング調査を進め、サービスの妥当な利用料などを検証する。
空中超音波を用いた触覚提示技術の事業化検証	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 特任助教 神垣 貴晶	空中超音波を用いた非接触の触覚提示技術の社会実装を目指し、事業化の準備・検証を行う。具体的には、本研究室で所有する技術・特許を踏まえ、仮想キャラクターとの触れ合いを実現する「ふれあいシステム」についてターゲット顧客へのヒアリングとその結果に基づく製品の試作を行い、ビジネス面・技術面での実用可能性を検証する。

<p>発電菌を利用した植物電池を電源とするエネルギー自給自足型IoTデバイスの事業化検証</p>	<p>東京農工大学 大学院工学研究院 助教 沖田 尚久</p>	<p>土壌に住み発電能力を持つ「発電菌」を利用する植物電池は、土壌と植物があればどこでも発電できる。太陽光発電の稼働が困難な山林内、農地、室内で利用可能で、投資コスト抑制も期待できる。本技術を農業分野のIoTセンサー用電源として販売するビジネスモデルを検証する。</p>
<p>クルマエビ抗体様蛋白質Dscamを用いた診断法・治療法の事業化検証</p>	<p>長崎大学 熱帯医学研究所 准教授 久保 嘉直</p>	<p>疾患の検査に利用される哺乳類抗体は2つの遺伝子産物から構成されるため、遺伝子工学での単離と改良が困難である。また毒性のたんぱく質や体内に保存されたたんぱく質に結合する抗体の単離も困難である。本事業は哺乳類から生物学的に離れたクルマエビの抗体様たんぱく質Dscamを用いた診断法・治療法の事業化について検証する。</p>
<p>超高速高解像4Dイメージング顕微鏡技術の事業化検証</p>	<p>広島大学 大学院統合生命科学研究科 准教授 杉 拓磨</p>	<p>3D空間をスキャンレスに撮影可能なライトフィールド(LF)顕微鏡は、既存の空間スキャンが必要な光学顕微鏡に比べ、撮影速度やコストの面で優位性を持つ。本事業では、独自に開発した高解像LF顕微鏡が4Dバイオイメージングのリアルタイム性とコストの問題を解決するかについて事業化検証を行う。</p>
<p>ヒトin vitro血液脳関門(BBB)モデルkitの事業化検証</p>	<p>山口大学 医学部／大学院医学系研究科 研究代表／助教 竹下 幸男</p>	<p>本事業では、創薬スクリーニング研究が可能な「ヒトin vitro血液脳関門(BBB)モデル」の上市化を最終ゴールとし、配給量の調査、安定配給の体制の構築、輸送方法の調査を検証し、起業時の資金やBBBモデルkitの価格を設定することを目的とする。</p>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム ＜プロジェクト推進型 ビジネスモデル検証支援＞概要

大学等の優れた技術シーズを基にした成長ポテンシャルの高い大学等発ベンチャーの創出を促進するためのプログラム。

研究者と事業化プロデューサー^{注1)}などが、事業化支援ノウハウを持つアクセラレーターにより行われる研修やメンタリングを通して、起業に有益な知識を実践的に学習します。併せて自らの技術シーズを基に実用検証可能な最小限の試作品やデータ（実験結果、計算結果）を準備し、想定顧客の評価を受け、その結果や社会ニーズを研究開発にフィードバックさせることで想定ビジネスモデル仮説を現実化、高度化させます。このようなビジネスモデルのブラッシュアップを繰り返すことで、ベンチャーに必要な実戦的能力の向上やネットワーク形成を図り、次の事業化ステージにつなげていきます。

注1) 事業化プロデューサー

研究代表者の技術を基に起業活動をする際、ビジネスモデル仮説の立案および検証の活動を中心的に行う者。学内外を問わず、研究代表者と二人三脚の協働で活動を行える者。

本プログラムの流れ

